

● 地域経済活性化特別枠

草の根技術協力（地域経済活性化特別枠）事業概要

I. 提案事業の概要	
1. 国名	カンボジア
2. 事業名	カンボジアにおける持続可能な社会構築のための教育改善
3. 事業の背景と必要性	持続可能な社会の構築は地球規模の課題であり、カンボジアにおいても持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）を実践し、教育の質を向上させることが求められている。とりわけ、成長著しいASEANにあって、カンボジアが経済成長と環境保全を両立すること、内戦を経験したカンボジアの社会に平和の文化を醸成することは、大きな意義をもつ。他方、同国でESDを具体化する学校づくりや授業実践の蓄積は十分ではなく、まずは教育省内で中核となる人材を育成し、カンボジア型ESDを実践する体制を整える必要がある。
4. プロジェクト目標	カンボジアにおけるESD実施の枠組みと実践事例が示され、同国教育省において今後のESD推進に向けた体制が整う。
5. 対象地域	首都・プノンペン特別市及びプノンペン近郊
6. 受益者層 (人数規模)	[直接受益者] 同国教育省職員のうち研修参加者（約20名、うち中核人材6名）、小学校教員養成校教職員（約40名：パイロット校の選定結果により確定） [間接受益者] 将来の教員となる養成校学生（約150～200名：パイロット校の選定結果により確定）等
7. 期待されるアウトプット及び活動（要旨）	<アウトプット> 1. 教育省において、ESDを担う中核人材の意識と能力が高まる。 2. 中核人材の支援のもと、パイロット教員養成校において、PDCAサイクルに基づくESD授業研究が自律的に実施される。 <活動> 1-1 パイロット教員養成校を確定するとともに、ESDの環境・平和領域について、中核人材を対象に本邦研修及び第三国研修を行い、ESD実践事例や授業研究による校内研修制度を共有する。 1-2 意識調査や既存のカリキュラム等を分析することによって、環境領域については活動計画を、平和領域についてはESD活動方針・内容を策定する。 1-3 上記の活動をもとに、同国におけるESD実施枠組みに係る報告書を作成する。 1-4 パイロット校の教職員に対してESDに係わる研修を実施する。 1-5 同校のESD授業研究の成果と課題を取りまとめ、国内外に発信する。 2-1 パイロット校において組織したESD担当者を対象に本邦研修を行い、ESD実践事例や授業研究による校内研修事例を共有する。 2-2 学期ごとの校内研修計画を策定し、環境領域については実践事例となる授業づくりを行い、平和領域については活動方針・内容を策定する。 2-3 ESD授業研究を試行する。 2-4 同校におけるESD実践の成果と課題を取りまとめる。
8. 実施期間	2014年3月～2016年9月
9. 事業費概算額	29,994千円
10. 事業の実施体制	日本側：ひろしま平和貢献ネットワーク協議会（国際社会の平和と発展に貢献することを目的に、県内の行政、経済団体、大学などで構成） カンボジア側：教育青年スポーツ省、コンボンスプー州教員養成校、タケオ州教員養成校
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	ひろしま平和貢献ネットワーク協議会（広島県）
2. 対象国との関係、協力実績	1) 2005～2007年度「カンボジア元気な学校プロジェクト」 シエムリアップ州ササースダム・クラスター小学校における算数及び保健教育分野の教員の授業能力向上 2) 2008～2010年度「カンボジア国における小学校教員の授業能力の向上」 タケオ州教員養成校における授業研究（理・数科）による授業の質的向上、学校経営の向上 3) 2011～2013年度「タケオ州における授業研究による教員の授業能力の向上」 タケオ州教員養成校及び近隣3小学校における小学校との合同授業研究（理・数科）による授業の質的向上、州教育局主導の授業研究実施体制の改善